

1 年生 研究授業

「くらべてよもう／じどう車くらべ」（13時間）

単元を貫く言語活動：「はたらくじどう車ずかんをつくろう」

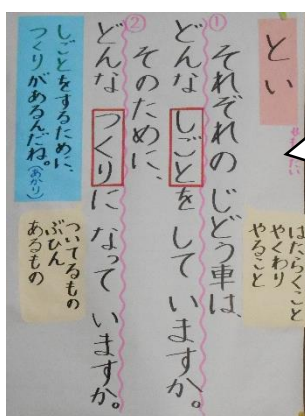
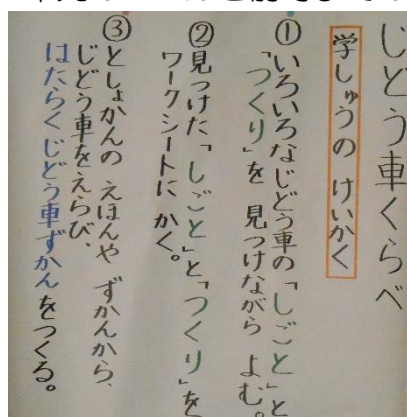
単元の
目 標

- ◎知識を得るために、事柄の順序を考えながら内容の大体を読むことができる。
- ◎知識を得るために、本や文章を読んで読むことができる。

◆本時の流れ◆（5／13時間）

【本時の目標】 はしご車の「しごと」と「つくり」を見付けながら読もう。

導 入 1. 単元のゴールと前時までの学習内容の振り返り



単元のゴール「はたらくじどう車ずかんをつくろう」を提示したり、「学習計画」や「前時までの学習内容」を掲示し、子どもたちが見通しをもって学習に取り組めるように工夫していました。



単元導入時には、教師が作成した「はたらくじどう車ずかん」を児童に提示し、意欲的に取り組めるよう工夫していました。

2. 学習課題の確認

はしご車の「しごと」と「つくり」を見つけながらよもう。

展 開 3. 教科書の挿絵を見て、はしご車について気付いたことを発表



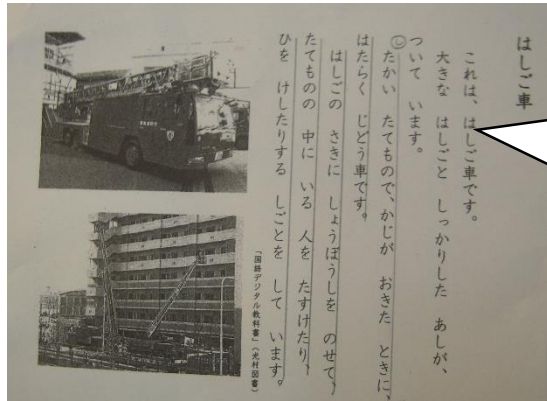
デジタル教科書で「はしご車」のページを提示。

4. デジタル教科書の動画を見て、はしご車の「しごと」と「つくり」を予想。



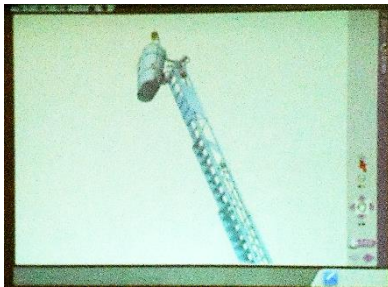
あえて音声を消して、動画を見せしていました。すると、子どもたちは「はしごがついてる」とか「はしごがすごく長い」など見て感じたことを口にしていました。音声を消して、動画を見せるのは、効果的だと分かりました。

5. 資料を読んで、はしご車の「しごと」と「つくり」を見付け、資料に線を引く。
⇒線を引いた部分をペアで交流



動画で見た「はしご車」の説明を文章にしたものを資料として活用しました。教科書の文章構成とは、少し異なっています。この単元のゴールは、「本や図鑑からはたらくじどう車のしごととつくりを見付け、図鑑を作る」ことですので、教科書以外の文章でも「しごと」と「つくり」を見付けられる力をつけていくことが大切だと考え、このような資料を準備しました。

6. 「しごと」だと思った理由、「つくり」だと思った理由を交流



7. 本時のまとめ

しごととつくりを見つけるためには、くわしくせつめいすることばに気をつけてよむとよい。

8. はしご車のカードに「しごと」を書く。



- まとめ 9. 次時ははしご車の「つくり」をまとめ、はしご車のカードを完成させることを確認

◆成果と課題◆

- 単元のゴールである「はたらくじどう車ずかん」を教師が作成し、子どもたちに提示したことで子どもたちは見通しをもって意欲的に取り組めた。
- 指導事項を明確にすることで、身に付けさせなければならない力が確実に身に付くことを実感できた。
- デジタル教科書の活用については、挿絵を拡大したり音声を出さずに動画を見せたりした。文章を正確に理解させる上で大変効果的であった。
- 本で調べて「じどう車ずかん」を作ったが、発達段階に合った本が学校図書館に少なく、市立中央図書館から借りてきた。図書がないことが課題である。